

縦に往來の便とす、亥かれども絶壁高くして、藤綱は數十丈の上に有故に、此大綱より梯子を河端に釣さげ、河を渡らんとする人は、先此梯子を逆上るに、大綱たはみ梯子ゆらめき、川風山嵐などに吹漂され、西に東に打なびきたるは誠に蜘蛛の糸をのばるがごとく、危き事限りなし、辛ふじて上なる大綱に取付て、彼籠の中へ身を納め、扱登りし梯子を離るゝや否や、身の重みに大綱たはみ矢を射ごとく、三四十間落下りて、大綱の眞中に鎮と成り、動搖震ふ事尤甚し、此時眼くるめき魂消へ殆ど人事を忘却す、實に天下第一の行路難、蜀の棧道、木曾の掛橋はいふにも足らず、人傳の物語りに聞さへ冷敷に、此所に生立し土人は常の事に習ひて、さは恐しからぬにや、米などを脊に負ながら、此藤梯子をのぼり、難なく向ふの岸へ通ふよし、都の人の夢にだに爲すべき業にはあらず、扱それより手藤てふちといふ細き藤綱を大綱へ打かけ、ひたすらたぐり登るにや、もすれば氣勞れ腕弱りて、此手藤を大綱へ掛損じ、忽ち後さまに舊の眞中へ戻る事多しとかや、此川筋に籠の涉り十一ヶ所有といへども、此五箇山のわたりなん、河幅八十間に餘り、大綱も高く半空にかゝり、渡り難所なり。○下略

〔和爾雅地理〕加賀國 篠渡

〔松葉名所和歌集〕籠渡 加賀

〔名所方角抄〕加賀白山 嶺 篠の渡。白山の中宮に有と云々、此山越前にかゝりたる大山也、
〔國花萬葉記〕籠の渡 是白山の中宮に有といへり、徒にやすくも過ぬ山伏のかごの渡もあるべあるよに、

〔加越能山川記〕加賀手取川

手取川は、能美郡石川郡の間にあり、○中略此川、○中白山の頂より西海までは凡廿五里程あり、大河故所々渡舟あり、漆栗生、燈臺、篠、和佐吉、廣瀬、上野、六ヶ所なり、植橋、山内、吉野、佐良、渴澄、中宮、尾添